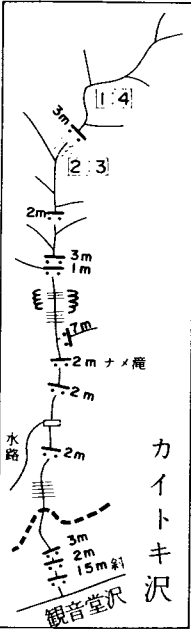


カイトキ沢

一九八三年一〇月二三日

旧観音堂集落のすぐ上流がカイトキ沢である。観音堂沢本流に一五匹の斜瀑をかけるが、右岸をブッシュづたいに登ることができる。その先小滝とF2三びも何なく登れる。S字状のカーブとなったナメを過ぎると橋である。橋のすぐ上のナメと小滝を越えた所に材木で造られた取水用の堰がある。旧観音堂集落のあたりに広がる田圃に水を引くためのものであろう。



カイトキ沢

岸が狭まってV字状の流れとなる。二俣まで小滝がいくつかでてくるが、歩きやすく、ペースも早まる。二俣からは右俣にルートをとる。

小さな斜瀑を越すとすぐまた二俣となるが、ここでも右俣にルートをとる。まもなく水がなくなり、カラマツ林に出る。カラマツ林で少し休んだあと、もときた沢を下降して今日の行動を終える。(記・上)

花の美しい樹木①

ネムノキ (マメ科)

山から野にかけてみられる落葉喬木。梅雨時になると、ピンク色をした多数の花糸（おしべの柄）ばかり目立つ美しい花をつける。▼この木には多くの特徴がある。▼まず幹、普通の木は上へ上へと伸びるが、ネムノキは斜めに立ち、枝を横に張り出して独特の樹形となる。▼葉は二回羽状複葉といい、夜になると閉じて垂れ下がって眠り、朝になると開いてもとの姿になる。このことが、この木の名前の由来ともなっている。(大西)

了(二:〇〇)

「タイム」 出合(一〇:四〇) ↓沢終